

# 橋本かずみ

2024年7月1日発行  
令和6年7月号

# 後援会news

豊かさ、安心、信頼を  
誰もが実感できる熱海へ。



## 《橋本かずみプロフィール》

- 1964年10月20日生まれ（59歳） ■熱海市清水町5番17号
- 静岡県立熱海高等学校卒業 ■株式会社東海プランニング代表取締役
- 2002年9月熱海市議会議員初当選（現在5期目）
- 2010年10月静岡県議会議員初当選（2期）
- 2015年6月衆議院議員秘書 ■2023年4月観光建設公営委員会副委員長

## 令和6年6月熱海市議会定例会報告

令和6年熱海市議会6月定例会は、6月4日から27日までの会期で開催され、提案された19案件すべてを可決・承認しました。可決された案件には、令和6年度熱海市一般会計補正予算案5億3757万4千円（定額減税補足給付金・住民税非課税世帯化等支援給付費等）や多賀小学校外壁等改修工事1億8095万円屈折はしご付き消防ポンプ自動車1億5895万円が含まれ、市道路線の廃止・認定等も審議いたしました。

### 【今議会の橋本登壇質問要旨】

1. 鈴木康友静岡県知事誕生にあたって
2. 議案第32号 令和6年度熱海市一般会計補正予算（第2号）に関して・第6款 観光商工費について・第8款 消防団第4分団詰所の建設予定地について
3. 議案第33号 令和6年度熱海市下水道事業会計補正予算（第1号）に関して・ウォーターPPP導入可能性調査業務委託について
4. 報告第7号 専決処 分の承認について（令和6年度熱海市一般会計補正予算（第1号））に関して・静岡県知事選挙から見る投票率向上のための今後の課題について
5. インバウンド向けプロモーション強化について



橋本かずみLINE (official)  
是非ご登録お願いいたします

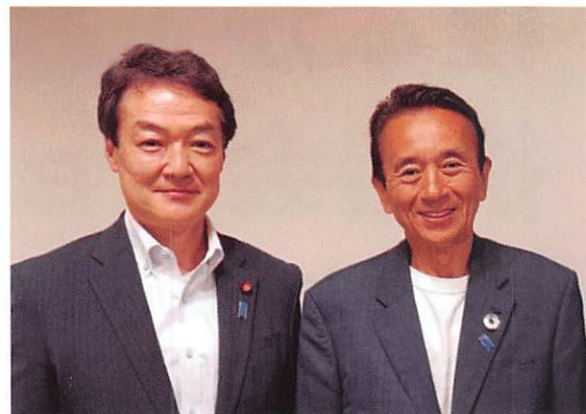
# ○鈴木康友静岡県知事誕生に当たって

## 橋本かずみ質問

民選第8代の静岡県知事に当選した鈴木康友新知事誕生にあたって齊藤市長にお聞きします。今回の選挙においては、東部・中部・西部に分けられて、投票結果を分析する報道を多く見ましたが、共に長期にわたり市長として活躍してきたわけですので鈴木知事となっても、市長時代のつながりをうまく活かしていただきたいと思います。

そこで、知事への期待と、熱海市と県と協力していく施策について、重点的なものを伺います。

鈴木新知事は、得票数が西部地区が多かったこともあり、「西部中心の県政になるのではないか」といった漠然とした不安があると思うが、一番気配りしなければいけないのは、小さな自治体の集合体である東部だと仰っています。仕事を通じて信頼していただけるよう努力していく」と述べられておりますが、早急な対応が求められている伊豆山土石流災害の復旧復興、本市の長年の懸案といえる県企業局との対話が重要な駿豆水道問題等、暗礁に乗り上げている問題の解決の糸口を見出すのは今ではないでしょうか。是非、今までよりも一歩踏み込んだといいますか緊密な連携をお願いしたいと思いますが協力体制についてもお考えをお聞きします。



熱海起雲閣にて鈴木康友知事と

## 齊藤栄市長答弁

鈴木知事は、浜松市長として、4期、16年を務められておりますことから、私も市長として市長会等、これまで様々な場面でお話をさせていただいております。また、伊豆山土石流災害での職員派遣をお願いした際にも、ご快諾をいただき、約1年半に渡り浜松市職員を派遣していただきました。本当にありがたく、心強く感じました。鈴木新知事への期待と、県と熱海市が協力していく施策として、まず、最優先に伊豆山土石流災害からの復旧・復興です。現在、県には逢初川の河川改修を鋭意進めていただいておりますが、市が行う逢初川の兩岸道路整備につきましても、連携して取り組んでいくことで、1日も早い復興が実現できるよう、また、再発防止策についても更なる支援をいただきたいと考えております。また、災害発生後から県職員を継続して本市に派遣いただいております。復旧・復興も道半ばであることから、今後も引き続きご協力いただければと期待しております。また、県水の受水費軽減についても、粘り強く要望してまいりたいと考えております。最後に、産業振興の観点からですが、本市は観光立市であり、これまでも静岡ディステーションキャンペーン等の諸施策で県とは連携して取り組んでまいりました。また、今定例会でご審議いただいている議案第32号として「宿泊業の経営基盤強化事業費補助金」につきましても、県との並行補助を基本に補正予算をお願いしております。今後も今まで以上に県や伊豆地域の自治体と連携し、観光誘客に努めてまいります。今後とも鈴木知事とより良い関係を構築していき、更なる協力体制の確立、また、これまでの課題が円滑に進展していくよう、働きかけてまいります。